

新しいビジネスを創造しよう。
高度な知識と、実践的な技で
変革のときこそ好機あり。



生成AI等の情報通信革命、環境共生型社会の構築など社会が大きく変貌する中で、農業・森林業もこれまで予想もできないかたちで発展・変化していくものと考えられます。こうした中、ビジネスとしての農業・森林業をきちんと「儲かるもの」にし、併せて地域をけん引していく人材の育成が急務となっています。

東北農林専門職大学は、職業専門人材を育成する高等教育機関として、優れた技術、経営力、国際競争力を有する農業・森林業のリーダーの育成を目指しています。主な特色として、「臨地実務実習を始めとする豊富な実習」、「研究者教員と実務家教員による理論と実践を学ぶハイブリッドな教育」、「将来ビジネスを行う際の発展の種になる展開科目を通じた応用力の養成」が挙げられます。

変革の時代にあっても、農業は国民生活に必要な不可欠な「食」を担い、森林業には国土の基盤を保全するという重責があります。本学において、社会で農業・森林業の実践者としてリーダーシップを発揮する、そして、グローバルに物事を捉え、地域の視点で行動していくことで新しい価値を創造し、さまざまなビジネスを築き上げていく力を身につけていきましょう。私たちと一緒に山形、東北、そして日本の農業・森林業の未来を切り拓いていきませんか。

東北農林専門職大学
学長
神山 修
Osamu Kamiyama

昭和60年4月農林水産省入省
在ドイツ日本大使館一等書記官、茨城県農林水産部長、東北大学大学院法学研究科教授、文部科学省大臣官房審議官、近畿農政局長、農林水産政策研究所長など、海外、地方公共団体、大学、他省庁を含む農林水産行政にとどまらない多彩な行政分野を経験

東北農林専門職大学が

いま注目されるワケ POINT 5

1 大学より、 専門職大学という選択

時代が求めた4年制大学の新しい制度。
これからの社会での活躍が期待されています。

「専門職大学」は、特定の職業のプロフェッショナルになるために必要な知識・理論、そして実践的なスキルの両方を身につけることができる大学として、2017年の学校教育法の改正によって新たに制定されました。4年制の大学として、卒業すれば「学士（専門職）」の学位が得られます。専門知識、実習・実技の修得に加え、産業界や地域社会との連携による実務実習、インターンシップが充実しています。卒業後は、修得した知識・理論や実践的なスキルを活かしつつ、社会や経済の動向を捉えた変革の担い手として活躍することが大いに期待されています。

2 未来を担う 農林業の新しいかたち

「技術革新」と「時代の変化」が
新しい農業経営の追い風です。

農業分野にも急速にデジタル技術が浸透してきました。「スマート農業」といわれるさまざまな技術の導入により、温度管理や水管理の省力化や、農産物の高品質化が期待されています。また、米や野菜の価格高騰で、国内の食料自給に対する意識がかつてないほど高まっています。本学で理論に裏打ちされた技術と、これからの農業経営のビジョンを学んだ人材が次代の農業を担っていくことでしょう。

新たな知識と技術によって、
新しい「森林業サービス」が生まれる。

日本唯一の「森林業経営」学科で、これからの森林業を支える優秀な人材を育てます。林業の現場では森林情報のデジタル化、林業作業の機械化や自動化などのスマート化が進んでいます。それによって、より安全で少人数での作業が可能になってきました。同時に森林は、レクリエーションや癒しの場として、教育や学習の場として注目されてきています。東北は豊かで多様性のある森林に恵まれています。東北の森のさまざまな恵みを新しい森林業サービスに結びつける専門的な人材がさらに求められていくことでしょう。

3 農業・森林業だけじゃない 学べることは多種多様

4年制大学だからこそ、
幅広いカリキュラム。
世界を目指すなど可能性も広がります。
社会の変化に対応した新しいビジネス戦略を生み出すためには、幅広い学びが必要です。専門分野の知識だけでなく、デザイン論や発酵学・醸造学、建築学など多様な科目を選択できます。またどんな事業でも国際化を意識するのは当然という時代。世界的な視点を持つために国際農業論、または国際森林業論を学びます。さらに希望する学生には海外実習で学ぶ機会も用意されています。



こんな人に東北農林専門職大学の門を叩いてほしい
東北農林専門職大学のアドミッション・ポリシー

1. 高等学校で習得すべき基礎学力を身に付けている人
2. 論理的に思考し、表現できる人
3. 多様性を認め、他者と協働して行動し、課題に対して主体的に取り組む努力ができる人
4. 課題解決や新たな価値の創造に取り組むために、柔軟な思考力を備えている人
5. 農業又は森林業に高い関心を持ち、農業又は森林業の課題解決や持続可能な地域の発展に貢献する意欲がある人

4 新しいキャンパスを舞台にハイブリッドな教員陣&少人数教育

実務家教員と研究者教員が連携した教育で「理論と実践」をつなげます。

実際の農林業現場での経験豊富な実務能力のある教員と、研究実績が豊富で理論に長けた研究能力のある教員が、各専攻分野にそれぞれ1名以上在籍し、ハイブリッドな教育研究体制となっています。

新しい校舎、学内の圃場・演習林など充実した学びの環境です。

新しい校舎は、講義室や実験室など学びの拠点となる「教育・研究棟」と、大講義室や図書館など学生と全国の研究者や地域のみなさんとの交流の拠点となる「交流棟」で構成されています。また、広大な敷地内には、圃場やハウス、畜舎、演習林に加えて、スマート農業研究・研修センターなどの附属施設が新しく整備されており、理論と実践を学ぶ充実した環境が整えられています。

少人数教育で学生に寄り添ったきめ細やかな学びができます。

社会が大きく変化する中、新しい農林業経営のかたちはさまざまです。幅広い知識、技術の修得と、時代の変化に対応した新しい経営戦略の創造のため、少人数体制できめ細やかな教育ができる環境が整えられています。



農林業界や行政、地域のみなさんが、新大学の挑戦を応援しています。

山形県内の農林業界、県、市町村、地域のみなさんが一緒に大学での教育・研究や学生の卒業後の進路を応援する体制となっています。

また「まつり」や「まちおこし」など地域の活動への参加も歓迎されています。さらに地域ブランドや商品開発などで地域の企業等と連携することも想定しています。



5

実習先は350ヶ所以上

山形県の地域社会、
産業界が応援しています

山形県内を中心に、東北全体に
特色ある実習先を確保しています。

専門職大学の一番の魅力は実習の充実ぶりです。大規模な稲作経営体や6次産業化[※]を実践する法人、スマート林業を行う森林事業体など、山形県、東北をリードする多種多様な実習先を350ヶ所以上用意しています。「臨地実務実習」は2年次から4年次まで毎年30日間、合計90日間、原則同じ実習先で行われ、技術の修得だけでなく、経営戦略や経営理念といった掘り下げた学習が可能です。

[※]6次産業化とは、農業を1次産業としてだけではなく、加工などの2次産業、さらにはサービスや販売などの3次産業まで含め、1次から3次まで一体化した産業として農業の可能性を広げようとするもの。